

那谷寺

石川県小松市那谷町ユ 122 ホームページ <http://www.natadera.com/>



日本人に生まれてよかった！と思う、
“苔”と“紅葉”に囲まれた
美しい庭園

母の胎内にいるかのような、
安らぎ、あたたかさ ——

幼少の頃に訪れた懐かしさなのか？
もっとうつと昔の記憶。。。？なのか
自分で作ったミニチュアの庭を覗いているような…
わくわく♡ 私の大好きな場所です(^)/

奇岩遊仙郷

太古の噴火の跡と伝えられ、永い年月波に洗われ、奇岩となりました。



奇岩怪石内の洞窟に、仏像が安置されています



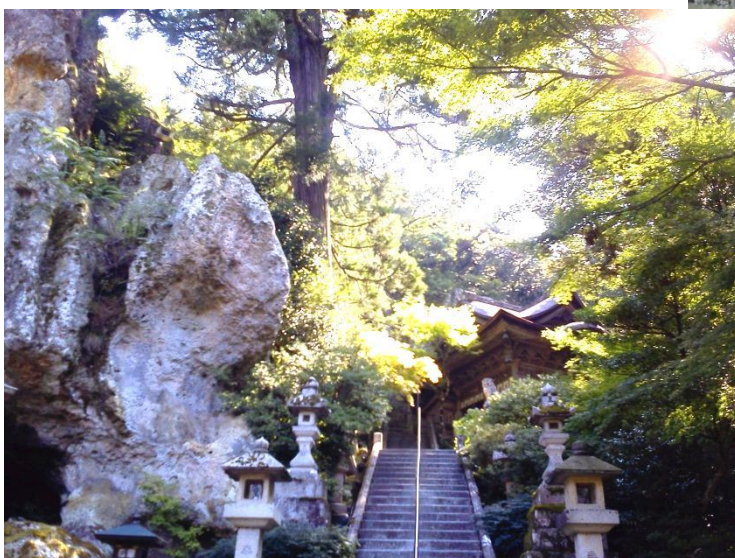
光と水がとけあつたような
繊細で優しいエネルギーを感じます

那谷寺を抱くようにしてそびえる白山は、その秀麗さ、気高さより、女神の住む山々として、古来より崇敬されてきました。

この那谷寺は、養老元年(717)、白山開山の祖と言われる泰澄大師によって開創されました。泰澄大師は夢に見た十一面千手観音を自ら創り、洞窟内に安置し、岩屋の胎内をくぐって、人としての罪を白く清める霊場“自生山岩屋寺”と名付けました。

その後、寛和二年(986)に、西国三十三番札所を開いた花山法皇(65代)が、この地を訪れた際、洞窟内の観音を見て、「私が求める三十三ヶ所はすべてここにあり」と言い、西国三十三ヶ所、第一番“紀伊的那智山”と、第三十三番“美濃の谷汲山”の各一文字をとって“那谷寺”と改め、自らこの地に居を構えました。

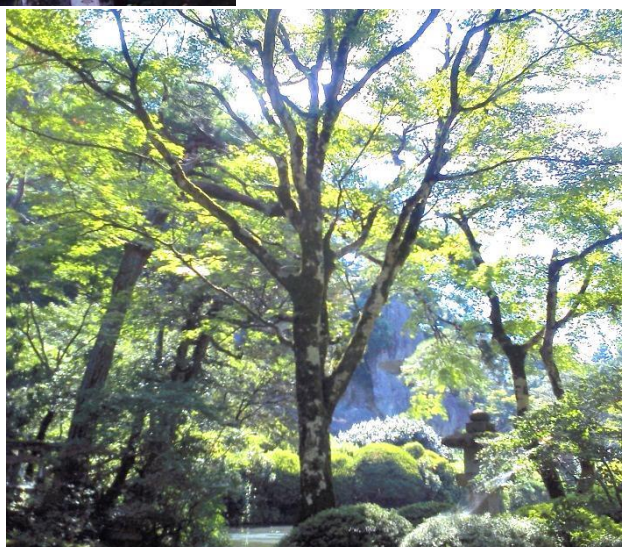
往時は寺院二百五十ヶ坊に及ぶ隆盛を極めました。南北朝の争い(1338)や、一向一揆(1474)により、坊舎は焼き尽くされてしまいました。しかし寛永年間(1640)、加賀藩主前田利常により復興され、今日にいたると言われます。



岩窟中腹に建てられた本殿の
大悲閣拝殿
御本尊の十一面千手観音菩薩が
安置されており、洞窟を一回りして
身を清める、「胎内くぐり」ができます。

那谷寺は、ジブリ映画の舞台
のよう。。
上手く説明できないのですが、
とにかく、あちこちに、何かがある?!
(笑)と感ずるのです

一本の木の前で、立ちつくしてしまいました
何か大きな意志のようなものを感じます
私達の周りの85%が、目に見えないもので
できていると言われますが
そこに、静かに意識を向けるようになって
自身の世界が、
とても豊かになったような気がします
誰のものでもなく、全ての為にあるものだけが
無尽蔵の世界へと、つながっている?
大きく張り巡らされた枝が、その入口の広さを
教えてくれているような気がします (*^^*)





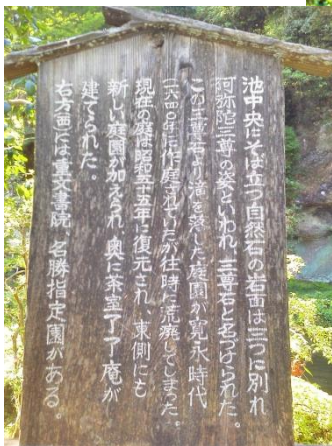
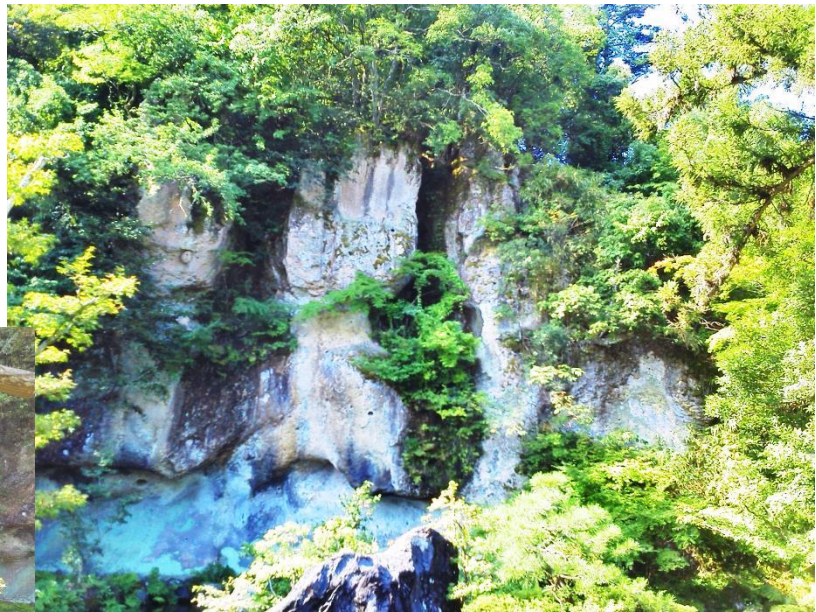
太陽 と 百寿観音

観音とは、菩薩の位まで身分を下げ
多くの人々を救う事を志願した
神の姿といわれます

その頭上から、なんともいえない美しい、
安らかな光が差し込んでいて
観音様は、その光を取り次いでいる
地上のポータル(門)のようです

金堂華王殿上空にも写っていた、この赤い光に
私のハートが震えて
思わず胸の前で、手をあわせたくなる感じ。。。
“ 聖母マリアの祈り ” の光景が浮かびます

これからは、人が光のポータルとなって歩く時代
世界中が、愛の光で満ち溢れますように。。。



特別拝観の三尊石琉美園に、初めて行ってみました。

この場所に来て、ギョッ?!としました。

人の姿は見えませんが、誰かにじっと見られてた?! 気がしたのです!
立て看板を見て納得! 岩は、岩じゃなかったんだ。。。

阿弥陀三尊とは、“無限の光をもつもの”とされる阿弥陀如来を真ん中にして、
左脇侍に、阿弥陀如来の慈悲をあらわす観音菩薩、
右脇侍に、智慧をあらわす勢至菩薩を安置する仏教形式との事です
エネルギー(神、仏)は理屈ではなく感じるもの! 確かに存在するもの! ですね



白山比咩神社と同じく、
こちらにも
松尾芭蕉の句碑がありました。
(*_*)

ブルーの光
知性のシャワー?!
とても神聖な感じがします



「石山の石より白し秋の風」 松尾芭蕉句碑

元禄二年(1689年)八月五日、松尾芭蕉が那谷寺を訪れ、
奥の細道に記した詩です。

難しくて、よくわからない。。。(^_^;) のですが

“白し”という言葉に、この地を感じる全てが込められているような気がします

清らかであたたかい、白山の“白”でもあるのではないのでしょうか？

とことん突き詰めていった先にあるもの、そこは真っ白な世界、すべてのはじまり—

“0 = ∞”

芭蕉を、少し身近に感じられた気がします。。。(*^^*)



すこし離れて見てみると、入口の扉が、
 ぴっぴかのクリスタル？！
 緑の美しい自然を映し出しています
 まるで万華鏡を覗くかのような ト・キ・メ・キ！！(^)
 御神鏡にも同じ世界が映っていて
 神とは鏡、みる人の心の世界そのまま… と感じました

めずらしく「おみくじ」をひいてみました。
 結果にとらわれたくないの、普段は素通りします。
 “吉、出るな、今は願い事叶わぬ 待て”
 了解です！(*^^)v
 ふと最初に見た、紙垂が浮かびました。
 紙垂は、神垂で、“垂”とは、しづ、たれる、の意
 神に垂れる謙虚さを、決して見失わないと誓いました！
 “神を頼らず、神を親しむ”
 というメッセージが聞こえてきました。(*^^*)

同じ境内にある、若宮白山神社を訪れました
 御祭神は菊理媛神です。

初めに目にとまったものは、鳥居注連縄に
 下がる、風に揺れる 紙垂(シテ) でした。

いらっしや〜い〜 (^)/ という、
 清々しい気を感じます。

拝殿の前に立ち、すこし驚きました。

奥に見えるのは、ポツリと“御神鏡？！”

その向こうは、ガラス張り？！

今まで訪れたことのある神社では、

見たことがなかった光景—

思わず扉に張り付いて、中を覗きこみました。

眩しい太陽の光に、キラキラと輝いているのが
 御祭神、菊理媛！？

なんにもない = なんという贅沢！

“愛の光”だけが、無限に広がる空間

そこにある幸せ…



紅葉の季節は
 また格別！
 さっとまた来ますね！
 すべてに感謝の
 一日でした
 ルミネス(*^_^*)